

1. めざす学校像

- ・校訓「人に愛される人 信頼される人 尊敬される人になろう」に基づき、「相互敬愛・思い遣り」の心を育成する

2. 中期的目標

(1) 近畿大学への進学

- ① 近畿大学の教育内容に係る理解の深化
- ② 柔軟な思考と学び方を身につけた社会に貢献できる自立した学習者の育成と近畿大学への進学

(2) 生徒育成の徹底

- ① 挨拶・礼儀の重視
- ② 自律して考え・判断し・行動できる生徒の育成
- ③ 各個人の権利の尊重、思い遣りの心・平等の心の育成
- ④ 学校行事・課外活動を通じ自主性・自発性の伸長、相互の友情と連帯感の深化、自己肯定感の醸成
- ⑤ 生徒会および各種委員会活動の活性化
- ⑥ 愛校心の育成

(3) 学習指導の徹底

- ① 授業の質を高め、生徒の授業満足度を高める
- ② 校内の全ての教育活動は大学・社会で活躍できる「後伸びする力」を身に付けた「グローバル人材の育成」を基本として実施する
- ③ ICTを利活用した教育改革を推進し、近大附属の教育 method を確立し、目指す学習活動、学習評価の明確化をはかりながら、高度情報社会の中に生きる生徒の適応力とモラルの向上を目的とした教育を展開する
- ④ 新しい教育改革にも対応して、日々に於けるより質の高い教育活動を展開する
- ⑤ 学習過程の評価重視に係る検討・実践

(4) 進路指導の徹底

- ① 「大学附属校としての教育」がより充実したものになるよう検討を重ねるとともに、有為な人材が一人でも多く近畿大学に進学できるようにする
【上記(1)に記載】
- ② 特進クラスに於ける(難関)国公立大学志望者への進路指導の徹底と合格支援を行う
- ③ 各群・各学年・各教科担当者との連携を強化する
- ④ 生徒が大学進学後も意欲的に学びを継続できるよう適切な学部・学科を主体的に選択させる

(5) 健全な経営状況の維持

- ① 事業活動収支差額の安定的な黒字化
- ② 受験者数の確保と定員の充足

[以上(1)から(4)の目標を群別・学年制のもと、それぞれが連携しつつ、特色のある教育を展開する]

3. 令和2年度の取組み内容および自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 近畿大学への進学	①近畿大学の教育内容に係る理解の深化 ②柔軟な思考と学び方を身につけた社会に貢献できる自立した学習者の育成と近畿大学への進学	①a)近畿大学各学部の特長・内容の理解[高校] b)近畿大学オープンキャンパスへの参加[高校] c)各コースの進路目標にあわせた近畿大学各施設を用いた見学会・体験実習の実施[中高] ②a)コミュニケーション力・発信力・主体性の育成[高校] b)平素の授業を通じての基礎学力の定着[高校] c)年間計画に基づく上記①および②(a)(b)の実施[高校]	①a)単なる学部説明に終始しない工夫 b)高校1年全生徒の参加 c)近畿大学学園各施設を活用した各コースにあった見学会・体験実習の実施 ②a1)自らのキャリアデザインを1年次に2000字論文、2年次に計5000字論文に著し、3年次に卒業論文8000字以上を完成 a2)iPadを利活用した工夫、コミュニケーション力・発進力・主体性養成プログラムを実施 b)各科目定期試験に於いて一定点数以上（素点＋平常点） c)年間計画の実施と進学率	①a)理工学部、法学部、薬学部、経営学部、文芸学部、総合社会学部、農学部、経済学部、生物理工学部、建築学部、国際学部で学部・学科説明の他、模擬講義を実施し、生徒の興味・関心を喚起した(延べ1300名の参加)【コロナ禍のため全てオンライン実施○】→次年度も継続して実施する b)8月22日に実施・参加[1054名参加]【コロナ禍のため全員オンライン参加○】(昨年度の検討結果通り第1学年全生徒の参加)→次年度も第1学年全生徒の参加とする c)近畿大学各施設に於いて年間計画に基づき実施【○】→次年度も継続して実施する ・農学部「2020 集まれ、アグリ村」に於ける計8回の農学部講師陣による講義を受講(全学年希望者対象)[高校] →コロナ禍のため全てオンライン実施 ・近畿大学奈良病院見学[中学医薬コース1年] →コロナ禍のため中止 ・医学部見学・体験実習[中学医薬コース2年] →コロナ禍のため中止 ・近畿大学奈良病院での看護体験実習[中学医薬コース3年] →コロナ禍のため中止 ・薬学部見学実習[中学医薬コース1年] →コロナ禍のため中止 ・薬学部薬用植物園見学[中学医薬コース2年] →コロナ禍のため中止 ・理工学部エネルギーふしぎ体験[中学全コース1年] →コロナ禍のためオンライン実施 ・理工学部実験実習[中学英数コースアドバンスト1年] →コロナ禍のため中止 ・理工学部夢サイエンス[中学英数コースプログレス3年] →コロナ禍のため中止 ・原子力研究所見学[中学2年希望者] →コロナ禍のため中止 ・生物理工学部実験実習[中学全コース2年] →コロナ禍のためオンライン実施 ・南紀体験学習[中学2年希望者] →コロナ禍のため中止 【水産研究所に於ける学習を含む】 →コロナ禍のため中止 ・近畿大学英語村でのE-Challenge[中学全学年希望者] →コロナ禍のため中止 ②a1)1年次にテンプレート3ステップを活用した2000字論文を完成（進学コース・6ヵ年課程英数コースプログレス生徒）【○】、2年次にテンプレートを活用した5000字論文を完成（進学コース・6ヵ年課程英数プログレスコース生徒）【○】→卒業論文8,000～10,000字の完成・提出(619名)【○】→次年度も継続して実施する a2-1)iPadを用いたクラス別プレゼンテーションの実施(進学コース1年および6ヵ年課程英数コースプログレス1年[9月]【◎】→次年度も継続実施する a2-2)計画通り5月から原則として週1回「KINDAI LEADERS 研修」を開催、『地方創成』について問題解決型学習方式を導入の上、生徒が主体的に学習。コロナ禍で課題を抱えている地域企業の、問題解決型商品開発プログラムにオンラインで取り組んだ。【○】 b)各科目一定点数未満者(素点＋平常点)→補習・再試験による指導【○】→次年度も継続実施する c)近畿大学への現役進学率[対卒業生数]64.3%【令和元年度に比して－0.9%】
(2) 生徒育成の徹底	①挨拶・礼儀の重視 ②自律して考え・判断し・行動できる生徒の育成 ③各個人の権利の尊重、思い遣りの心・平等の心の育成 ④学校行事・課外活動を通じ自主性・自発性の伸長、相互の友情と連帯感の深化、自己肯定感の醸成 ⑤生徒会および各種委員会活動の活性化	①a)特に朝の挨拶指導の徹底[中高]週番の活動による挨拶運動[中] b)月毎の生活目標を設定[高] ②a)特に登校予鈴時刻までの着席[中高] b)登下校時に於ける通学路の片側通行の指導徹底[中高] ③・人権教育室と連携強化し、年間計画に基づく人権教育室発信のワークシートによるホームルームの実施[中高] ④a)クラスまたはコース単位での校外学習の実施[高校] b)教科学習とクラブ活動の両立および自ら考え率先し	①a)特に朝の挨拶指導の実施[中高]挨拶運動の実施[中] b)月毎[高校]の生活目標を意識付ける指導 ②a)予鈴8時25分段階での担任教員による着席確認 b)登下校時に於ける重要地点での片側通行 ③・年間計画に基づく毎学期、学年毎の人権（権利・平等など）に関するワークシートを用いた課題の活用 ④a)生徒による校外学習の計画立案と実施 b)教科学習とクラブ活動の両立および自ら考え率先して行動する指導の実践	①a)朝の挨拶【○】→次年度も継続して指導 b)意識付けの指導【○】→次年度も継続して指導 ②a)新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、分散登校を実施。コース毎に定められた時間に登校し、遅刻生徒数の減少維持【○】→次年度も担任教員による予鈴時に於ける着席指導を継続[中高] b)重要地点の登校指導を実施。生徒がマナーを意識し実践する指導を継続実施【○】→次年度も登下校指導を継続 ③・年間計画に基づき実施し、人権意識の向上に係る指導を継続【○】→次年度も継続して実施 ④a)iPad等を活用した情報収集と、クラスまたはコースの目的に沿った校外学習内容を設定・実施【○】(但し新型コロナウイルス感染症による休校措置に伴い2学期に延期して実施したため、高校3年生は実施できず) b1)年間を通じ教科学習とクラブ活動との両立を指導【○】[中高]→次年度も継続して指導 b2)各クラブ員による挨拶の率先励行と各種学校行事に於ける率先行動【○】[中高] b3)新型コロナウイルス感染対策を講じ、体育祭準備、体育祭、球技大会に於いて多くのクラブ部員が率先して連帯のうえ運営補助にあたり体育行事を成功に導く【○】

	⑥愛校心の育成	て行動する指導の徹底[中高] ⑤・年間活動計画に基づく学校行事の実施[中高] ⑥a)近隣に評価される学校作り[中高] b)自校教育推進[中高]	⑤・年間活動計画の実施 ⑥a)本校生に対する苦情などについて迅速な問題提起のうえの指導 b)クラスグループ毎、年間計画による指導	[高校] ⑤・年間活動計画を実施[中高]【○】。ウィズコロナの文化祭として、生徒会を中心にオンライン近高祭を開催した。[高校]【○】 ⑥a1)学年集会、HR 活動、iPad を通じて生徒への問題提起・注意・指導【○】→大規模校である本校生徒に対する苦情内容を生徒が理解→次年度も指導を継続 a2)新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、校外清掃活動[中 1]の実施を見合わせた。→新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を見て次年度以降の実施を検討する。 *)但し、雨天時学校周辺地域に於ける保護者による生徒送迎車両駐車に対する苦情について引き続き対策を講じる必要性有り b)年間計画のとおり実施【○】
(3) 学 習 指 導 の 徹 底	①授業の質を高め、生徒の授業満足度を高める ②校内の全ての教育活動は大学・社会で活躍できる「後伸びする力」を身に付けた「グローバル人材の育成」を基本として実施する ③ I C T を利活用した教育改革を推進し、近大附属の教育 method を確立し、目指す学習活動、学習評価の明確化をはかりながら、高度情報社会の中に生きる生徒の適応力とモラルの向上を目的とした教育を展開する ④新しい教育改革にも対応して、日々に於けるより質の高い教育活動を展開する ⑤学習過程の評価重視に係る検討・実践	①a)iPadの利活用による新しい授業実践[中高] b)学園内附属学校教育研究会の実施[中高] c)授業アンケートの実施と自己分析[中高] ②a)iPadを利活用したe-ラーニングによる英語4技能の育成[高校] b)グローバル人材育成プログラムの実施[高校] c)エンパワーメントプログラムの実施[中高] d)アクティブラーニングの研究と採用[中高] e)年間計画に基づく TOEIC・TOEIC Bridge [高校]および TOEIC Primary[中学]の校内実施 f)年間計画に基づく海外語学研修・海外留学・国内研修[中高] ③a)授業・学校行事等高校生活に於ける様々な場面でのiPad・各種アプリの利活用および教員の創意工夫によるプロジェクト型学習・反転授業などによる授業改革の実施[中高] b)生徒の自主性・積極性の育成【中高】 c)情報ネット社会に於けるいじめ・人権侵害に係る年間計画による指導[中高] ④上記(1)の②及び(3)の①②③の内容を実践【中高】 ⑤教育課程検討委員会を設置し、次期学習指導要領適用に向けた教育課程作成に取り組み、形成的評価を導入する	①a)下記③の(a)を指標 b)学園内附属学校教育研究会への参加 c)生徒の満足度80%以上 ②a)通信環境があれば「いつでも・どこでも」学習できることを周知し、指導教員は年間計画のとおり指導 b)UCLA で実施 c)年間計画で校内実施 d1)アクティブラーニングによる課外授業実施 d2)次期学習指導要領適用に向けた教科内での研究 e)年間計画で実施 f)年間計画で実施 ③a)教職員による iPad 利活用内容 b)生徒の取組み c)年間計画による指導実践 ④上記(1)の②及び(3)の①②③の内容に同じ【中高】 ⑤次期学習指導要領適用に向けた教育課程の作成及び形成的評価の導入	① a)下記③の(a1)～(a4)のとおり b)近畿大学附属広島高等学校東広島校での附属教育研究会参加に向けて、資料作成を進めていたが新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。 → 次年度も東広島校で開催予定 c)授業満足度（肯定的回答率） ・90.1%【○】[高校] *授業はわかり易く工夫がされている【90.4%】 *授業・課題等で iPad やプロジェクター等が積極的に使用されていた【80.1%】 *授業・課題に於いて iPad やプロジェクター等で理解が深まった【77.0%】 *授業内容から興味・関心がわき、自ら学習しようとする気持ちが生じた【81.2%】 *教員は質問に的確に対応してくれる【93.4%】 *授業の進み方や内容(難易)はちょうど良い【88.8%】 *授業の進み方や内容(難易)はちょうど良い【89.3%】 *5月からのオンライン授業の内容は適当だった【87.2%】 *総じて授業に真剣に取り組んでいる【95.5%】 ・87.1%【○】[中学校] *毎回の授業の目標が明確に伝わっている【90.5%】 *声の大きさや話すスピードはちょうど良い【90.7%】 *白板(スライドを含む)はわかりやすく工夫されている【88.2%】 *宿題(課題)の量・内容はちょうど良い【87.9%】 *授業の進み方や内容(難易度)はちょうど良い【89.0%】 *授業によって興味・関心がわき、自ら学びたいと感じた【78.8%】 *授業内容に満足している【88.9%】 *臨時休校期間中のオンライン授業の内容は適当だった【87.1%】 ②a) 英語4技能の総合的な育成、民間の資格・検定試験の活用を継続する。 b)コロナ禍のため中止 →次年度の継続実施を決定 c1)コロナ禍のため中止【高校】→次年度の継続実施を決定 c2)コロナ禍のため中止【中学】→次年度の継続実施を決定 d1)10名の世界の一線で活躍するゲスト・スピーカーによる「コネクティング・ザ・ニューワールド」セミナーを実施【○】[近畿大学入学予定者対象]→次年度も継続して実施する d2)教育改革推進室と各教科教育改革推進担当者が定期的にミーティングを開き、アクティブラーニングを含めた授業展開とその評価法の研究を活発におこなった【○】 e)コロナ禍のため日程変更などはあったが実施【○】→次年度も継続して実施する f1)コロナ禍のため中止となった f2-1)シンガポール英語研修(中学校課程)を計画していたが新型コロナウイルス感染防止のため中止となった f2-2)ブリティッシュ・ヒルズ研修(中学校課程 37名)を福島県で実施[中学]【○】→次年度も継続して実施する ③a1) Apple 社から本校が Apple Distinguished School として3度目の認定更新を受け継続中である[2018-2021 2018.11 認定]【○】[高校] a2)Apple Distinguished Educator に6名の教員が資格継続【○】[高校] a3)本校教員を対象に学校のあり方を教員全体で考えるイベントとして[SET KINDAI(ICT 教育イベント)]を計画していたがコロナ禍のため中止となった。 b1)オンラインの文化祭に於いて自分で考え何かを作り出し展示・発表する【○:利活用の自由度を付与し、生徒もそれに応えている】 b2)文理コース1・2年生が「課題研究 ポスターセッション& Oral Presentation」を実施(3月)→次年度も継続実施する c)ケータイ教室を実施[中 1]、インターネットモラル教室をオンライン実施[高 1]し、

				HRでの指導【○】→次年度も継続して実施する ④上記(1)の②及び(3)の①②③の内容に同じ【中高】 ⑤教育課程検討委員会を中心に各群・コースにより、次期学習指導要領適用に向けた教育課程作成に取り組んだ。教育改革推進室を中心に授業展開と評価法の研究に取り組み、形成的評価(50%)を導入した。
--	--	--	--	---

(4) 進路指導の徹底 【但し、①については、中期的目標の(1)に記載する】	②特進クラスに於ける(難関)国公立大学志望者への進路指導の徹底と合格支援を行う ③各群・各学年・各教科担当者との連携を強化する ④生徒が大学進学後も意欲的に学びを継続できるよう適切な学部・学科を主体的に選択させる	②下記の③④を年間計画[高校] ③・年間計画に基づく指導[高校] a)特進クラスの群・学年・教科担当者の連携と指導力の強化 b)研修会や説明会を通じて生徒の目標達成の支援 c)過年度生への支援 ④・教員が国公立大学進学情報、在籍生徒の成績分析結果および志望状況に関する情報を共有化した上での細かな進路指導を実施[高校] また、生徒自身が将来像を描き進学目標を定められるよう、講演会や進学イベントを年間計画に基づき実施[高校]	②・合格実績 ③・年間計画に基づく実施 ④・年間計画に基づく実施	②・難関国立10大学・国公立大学医学科・大阪市立大学・大阪府立大学合格者数計37名(含過年度生)[東北大学2名・大阪大学12名・神戸大学4名・大阪市立大学8名・大阪府立大学7名・鳥取大学医学科1名・徳島大学医学科1名・熊本大学医学科1名・宮崎大学医学科1名]【対前年度11名↓】 ・国公立大学合格者数(含過年度生)計121名【対前年度21名↓】 ③・年間計画に基づいて実施【○】 a)各種学外入試研究会への参加と情報収集と情報共有 b1)入試情報分析説明会[6月](高3年希望生徒・保護者対象)[約255名参加] b2)大学入試動向説明会[11月](高3年希望生徒対象)[165名参加] b3)共通テストリサーチに係る合同ホームルーム[1月](高3年希望生徒対象)[199名参加] c)過年度生への激励メッセージの記入[7月・12月] ④・年間計画に基づいて実施【○】 ・学内進路資料の作成 ・教員対象各種学外研究会内容の周知 ・高大接続およびキャリア教育各種体験型行事への生徒参加促進 ・『学びの記録』の生徒活用促進 ・進路志望調査の実施[5月](高3全生徒対象) ・進路志望調査の実施[6月](高1・2全生徒対象) ・進路適性検査「学びみらいPASS」の実施[7月](高1特進クラス全生徒対象) ・夢ナビライブ(模擬講義や教授との進路相談など、進路を考えるイベント) → コロナ禍のため中止→次年度の継続実施を決定 ・キャリアガイダンスの実施[9月](高1特進クラス全生徒対象) ・進路適性検査結果に係る教員対象説明会の実施[9月] ・一日看護師体験の実施[7月](高2・3生希望生徒対象) → コロナ禍のため中止 → 次年度の継続実施を決定 ・高校生保育園職場体験の実施[夏期休暇中](高1・2生希望生徒対象)→コロナ禍のため中止 → 次年度の継続実施を決定 ・進路志望調査の実施[9月](高2全生徒対象) ・進路志望調査の実施[10月](高1全生徒対象) ・京都大学キャンパス見学会 [12月]→コロナ禍のため中止 → 次年度の継続実施を決定 ・大阪大学キャンパス見学会 [7月]→コロナ禍のため中止 → 次年度の継続実施を決定
(5) 健全な経営状況の維持	①事業活動収支差額の安定的な黒字化 ②受験者数の確保と定員の充足	①・ICT教育環境の整備を引き続き行い、全生徒が問題なくタブレット端末を活用できるようにし、新たな整備のために、従来からの情報系保守・運用管理費用の削減を行う[中高] ②・安定的な収入を確保するため、生徒募集を強化し、受験者の確保、定員の充足に努める[中高]	①・決算での事業活動収支差額の黒字化 ②a)入学試験に於ける実質競争倍率 b)学則に於ける生徒定員の充足	①・経常収支としては黒字を維持したが、体育館棟 柔道場・剣道場 空調設置工事・人工芝グラウンド ナイター照明改修工事等で施設関係支出が増加 ②a)入学試験に於ける実質競争倍率 高等学校 1.07 倍【○】 中学校 1.55 倍【○】 b)生徒定員を充足【○】[中高]